

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立淀橋第四小学校

【HP公開用・様式1】

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	○児童の「意欲を高める」「理解を深める」授業を実践する。基礎的・基本的な学力を確実に定着させるとともに、それを活用し主体的・対話的な授業の充実を図る。
環境作り		○一人1台タブレット端末を効果的に活用し、個別最適化された学び・協働的な学び・家庭と連携した学び等の充実を図る。ICT機器を効果的に活用し、児童の驚きや発見を導き、理解を深める。ユニバーサルデザインの視点から個に応じた学びの充実を図る。

■ 学年の取組について

学 年	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組	中間評価 ☆成果と●課題	中間追記	2月最終評価
1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読み方については、概ね理解しているが、筆順や「トメ」「ハネ」等を正確に書くことについては、繰り返し練習し、定着させる必要がある。 ・知らない言葉を正確に理解できるように、教材文や読み聞かせ、読書の推進から語彙量を増やし、日常生活の中で使いこなせるようにする。 ・1から10の数は捉えられる。今後、ものともを対応させることで個数を比べたり、個数や順番を正しく数えたり表したりすることなどを指導し、整数の意味について理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①語句や語句のまとまりを意識した音読活動 ②読書環境の充実と学校図書館の活用 ③デジタルドリルやプリントを活用した反復学習 ④具体物、半具体物の活用 ⑤ICT機器を活用した学習 	<ul style="list-style-type: none"> ●プリントやデジタルドリルで復習を行うことで、筆順等正確に書けるように今後も定着を図っていく。 ☆ひらがなが概ねの児童が読めるようになった。物語文では工夫して音読することもできるようになった。言葉の意味を押さえることで、理解して読めている様子が見受けられる。 ☆数の概念は概ね理解している。算数ブロックの操作をしたり、ノートに図で描いたり、考え方を視覚的に理解につなげられるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量が増えるよう、読書の記録カードを作成した。ジャンルは問わず多くの本を手にとることで、言葉に触れる機会を作っていく。 ・ひらがな、カタカナ、漢字のテストを繰り返し行い、定着を確実にする。 ・少人数算数につながる本校のノートの活用方法を定着させるようにし、授業の終わりに1時間の学習が振り返られるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆物語文・説明文の音読や小単位にある短文を声に出し、何度も読むことを日頃から行ってきたことで、語句のまとまりを意識して読む児童が増えた。また、3学期からはデジタルドリルで短文の問題に取り組み、言葉の使い方や理解につなげられるようにしている。 ☆学年全体で読書活動に力を入れてきた。学級でも多くの本の読み聞かせを実施し、分からない言葉は補足しながら一緒に読書をしてきた。全体で読んだ本をもう一度手に取って読んだり、シリーズ作品に興味をもったりするなど、本に親しむ児童が増えた。 ●算数ブロックの操作やノートに図を描いて考えを表現できるようになってきた。ただ、時間を置くと忘れてしまう様子が見られるので、定期的に問題に取り組む機会を作る必要がある。
2 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習のひらがな・カタカナ・漢字について、概ね読み書きはできているが、誤字脱字や句点のうち忘れが多く、文意識を育てていく必要がある。 ・文章を正確に読み、根拠となる部分を基に話の内容を理解する力が必要である。 ・加減計算で繰り上がりや繰り下がりがないものは概ね理解できているが、繰り上がりや繰り下がりがある問題に対しては課題が残る。 ・問題文から立式をするのに、内容を正しく読み取る力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日記の課題 ②日々の音読の課題 ③デジタルドリル・スキルアップドリルの活用 ④具体物や図を取り入れた学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ●誤字脱字、句読点の使い方に課題がある。特に読点の打ち間違いや促音便の使い方に課題が残る児童がいるので、日記指導を通して、文章を書く力を身に付けていく。 ☆物語文・説明文では、根拠を考えながら読み進めたことで、文章中の細かい単語に気を配れるようになってきた。 ☆位が大きい加法・減法の学習を通して、既習内容を確認しながら学習を進め、繰り上がり、繰り下がり の計算が習熟した。 ☆具体物を操作する活動を取り入れ、本時の課題を自力解決できる児童が増えている。また、ペア学習で、自分の考えを説明し、考え方の共通点や相違点を見付けられるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字が増えてきた分、学習しているのにも関わらず、ひらがなで書く児童がいるので、引き続き、ノート指導・日記指導をしていきたい。 ・テープ図を描くことに課題が残る。演算決定する際にテープ図を作成し、演算決定の手段とする。文章問題では、場面絵を作り、図を描くことに移行できるように繰り返し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ノート指導や日記指導を通して、撥音便や促音便、「を」「へ」「は」等の書き間違いは減ってきた。 ☆音読で教科書を読んだり、授業の中で根拠になる叙述を読み取ったりすることで教科書の文章を丁寧に読むようになった。 ●デジタルドリルに繰り返し取り組ませたり、スキルアップドリルを活用したりすることで、計算の習熟を図れるようになってきた。既習内容が定着していなかったり、計算に不安をもつ児童もいたりするため、繰り返し指導が必要である。 ●問題文のキーワードから立式する力が身に付いている反面、テープ図を正確に描くことができない児童がいた。今後も文章問題とテープ図を関連付けた指導を行い、定着を図っていく。
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・大事な言葉は補足をしないと探せないことがあるので、質問形式で問うことで大事な言葉を見付けられるように、指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①国語辞典の活用 ②場面や段落ごとのキーワードに着目させる学習指導 ③デジタルドリルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ☆文章を読む際に大事な言葉について指導してきたところ、それらの言葉を見付けられるようになってきた。 ☆各場面・段落を意識して、内容のまとまりとして読 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き国語辞典を活用し、意味調べの習慣を定着させる。 ・語彙を増やすため、読書の機会を増やす。読み聞かせやお勧めの本を紹介することで、様々な本に触 	<ul style="list-style-type: none"> ☆叙述を捉えて想像を膨らませることができるようになった。 また、知らない言葉が出てきたときに、国語辞典を活用して調べようとする意識が高まった。

	<ul style="list-style-type: none"> 文章の読み違いがないように、各場面・段落ごとに読み取りながら授業を進めていく。 文章問題にたくさん触れられるようにする必要がある。 具体物や半具体物を取り入れて、実感をもって考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ④問題の反復練習 ⑤具体物や半具体物を取り入れた学習 	<ul style="list-style-type: none"> み取れるようになってきた。 ●語彙が少なく、言葉の意味を理解できていない児童がいる。 ●文章問題の問題把握が不十分である。 ☆具体物や半具体物を取り入れたことで、実感をもって考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> れる機会を作る。 問題文の内容を整理するため、線分図やテープ図、場面図を描いて問題に取り組むよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆接続語や順序を表す言葉、文末表現などのキーワードに着目して読み取れるようになった。また、場面や段落のつながりを意識するようになった。 ●デジタルドリルなどを活用して、文章問題の反復練習をおこない、立式できるようになった。しかし、その後の四則計算に課題が見られた。 ☆問題文の内容を整理するため、線分図やテープ図、場面図を描いて問題に取り組むよう指導したところ、式の意味が分かるようになった。
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読みはできているが、文章の中で活用できるように、いろいろな文章に慣れる必要がある。 自分の考えを叙述を基にして、根拠を明確にして表現できるようにする。 定規、コンパス、三角定規などを扱うときには、道具の使い方を繰り返し、個別に指導する。 課題把握、自力解決、練り上げ、まとめなどの問題解決学習を通じて、思考力、判断力、表現力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①国語辞典の活用の推進 ②自分の根拠を明確にした考えの記述→友達との意見交流→振り返りの流れを授業で繰り返す ③問題解決学習 ④デジタルドリルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ●各教科の学習で文を書くとき、既習の漢字を使わずに平仮名で書く児童が多い。また、教科書本文に出てくる言葉の意味を、正しく理解しないで読み進める児童も一定数いる。 ☆物語文の読み取りに関しては、叙述を基に考え、根拠を明確にして表現できる児童が増えた。 ●分度器やコンパス、三角定規を正しく扱えない児童が一定数いる。 ☆各教科で問題解決学習を取り入れたことにより、主体的に考え、思考力・判断力・表現力が高まった児童が増えた。 ☆家庭学習において継続的にデジタルドリルを活用し、基礎基本の定着を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語辞典だけでなく、漢字辞典も必要に応じて活用する。 基本的に既習の漢字を使って文を書くように指導を徹底する。 分度器やコンパス、三角定規の使い方をデジタル教材を活用して視覚的に示し、その子の課題に応じて個別に対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●文章を書く際に既習の漢字を活用していなかったり、誤字脱字が多かったりする児童が半数以上見られる。学力定着度調査においても、「漢字の書き」については正答率が低い。既習の漢字を活用できるよう、机間指導の際に声を掛けていく。 ☆登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に自分の考えをもつことができる児童が増えた。 ●学力定着度調査において、説明文は物語文と比較して正答率が低かった。段落相互の関係に着目しながら読み取り、全体の構造と内容を捉えられるように指導を進めていく。 ☆学力定着度調査において、作図の問題の正答率が高く、分度器やコンパスを活用し三角形を作図できる児童が増えた。習熟度別学習で作図を苦手としている児童を対象に、個別指導を進めた成果が表れた。 ☆問題解決型学習を通して、既習事項を活用して問題を解決していく力が高まった。今後は問題解決したこと表現できるように指導を継続していく。
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の送り仮名を間違える傾向があるので、学習した漢字は日常的に活用する習慣を身に付ける。忘れてしまった漢字は漢字辞典で調べる習慣を身に付ける。 初め、中、終わりの段落構成を理解したうえで、各段落の役割を確認する必要がある。各段落の意図や効果を読み取る学習を積み重ねる。 読み取ったことについて、どうしてそう考えたのか、叙述を根拠に説明する学習を積み重ねる。 重ねた三角定規の角度を問う問題や、平行の性質を活用した問題など、学習内容の適応問題や応用問題の充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①漢字辞典の活用 ②段落の役割や効果の理解 ③叙述を根拠に説明する活動の充実 ④デジタルドリルの活用 ⑤位取り表や単位換算表の作成及び半具体物の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ☆新出漢字の練習を計画的に行っている。ほぼ毎日家庭学習を出し、ノート練習やデジタル教材で日常的に確認したり調べたりして積み重ねることもできている。 ☆既習の漢字を調べるため漢字辞典の活用を推進しているが、教科書やドリルで探す児童が多い。 ☆三段構成を考えながら文章を書いたり読んだりする児童が増えてきたが、場面と段落の意味や使い方、効果について正しく理解していない児童もいる。 ☆基礎問題だけでなく、適応問題などに多く取り組んだことで、用具を正しく用いて正確に作図することのできる児童が多くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級文庫に漢字辞典を置いておき、手軽に使える環境を整える。また辞書引き学習に課題がある児童にはタブレット端末を用いた調べ方の活用についても支援する。 教科書の文章について、新しい単元の導入では文章の種類を確認し、その特徴などを復習してから学習に進むようにする。 読み物教材では文章の中から読み取るため、『一人で探す時間』『友達と分かち合う時間』を授業内に確保する。その際に友達に理由を説明するようにする。 単位換算の基準となる数値（1 m³=1000000 cm³等）の問題をプリントやタブレット端末を活用した学習を通して繰り返し解き、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆文章を書く際に、漢字を使用することや送り仮名を正しく書くことを指導した。教科書の索引や漢字ドリルで調べてから漢字を書く児童が増えた。漢字を調べる習慣が身に付いてきた。 ☆文章を書く際は、三段構成で書くことを繰り返し指導した。文章の構成や読み取り方が分かるようになった。 ☆叙述を基にして、意見文や説明文の主張を読み取れるようになってきた。文章を書く際にも、根拠を明確にし説得力のある文章を書く児童が増えた。 ●図形の定義や公式などの定着が不十分であり、繰り返し問題に取り組む必要がある。デジタルドリルとプリント学習を併用して定着を図っていく。 ☆数直線や図を描き、読み取る指導を繰り返した。数直線や図を描ける児童が増え、立式に自信をもてる児童が増えた

	<ul style="list-style-type: none"> 単位換算については、繰り返し問題を解き、習熟を図る必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ●位や数が多くなるにつれ、単位換算の間違いが多い児童が増えた。 		
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読みはできる児童が多く、概形は理解できている。そのため、漢字の細部や音に着目して書くための支援をする必要がある。 主語と述語や、修飾語と被修飾語の関係を理解し、文章に書かれている筆者の主張や、考えについて誤解なく読み取る力を付ける必要がある。 人物像を読み取ることを生かして、その人物の心情の変化や起きた出来事を取り上げ、場面ごとの状況が理解できるようにする。 分数の理解を深めるために、仮分数を帯分数に直したり、数直線や図に表したりして数の大小が理解しやすいように支援する。 得意がさらに伸ばせるように、立式の際に説明をする活動や言葉の式に表す活動を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童一人ひとりに即した課題の設定 ②デジタルドリルの活用 ③論理の組み立てについて理解 ④情景描写や、場面のつながりの理解 ⑤数直線にを用いた数の大小の理解 ⑥解法の追求、発展的な課題への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ☆デジタルドリルとスキルを併用して家庭学習に取り組ませることで、ワークテストにおける漢字や計算問題の正答率が向上した。また、既習漢字を使うことを意識する児童が増えた。 ☆月に1回以上原稿用紙を使って作文をする機会や単元ごとにノートに学習感想を書く機会を作ったところ、「書く」ことへの苦手意識が少なくなってきた。 ●文章を正しく読み取る力が不十分である。文章の概要は掴めるが、登場人物の心情を読みとることが苦手な児童が多い。 ●分数の四則計算の方法を混乱している児童がいる。また、約分、通分の理解が不十分な児童がいる。 ☆全国学力・学習状況調査の結果でも、記述式の問題の正答率が高く、ほとんどの児童が自分の言葉で回答することができた。引き続き説明したり、言葉の式で表したりする活動を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き新出漢字の練習、または既習漢字の定着のため、デジタルドリルと漢字ドリルを併用し、家庭学習等で取り組ませる。 家庭学習で音読に取り組ませ、物語の概要だけでなく、情景描写や登場人物の心情の変化に着目できるように指導を行う。また、読み取ったことは他者と共有できるように、少人数での意見交流の時間を授業内で確保する。 分数や小数の計算をプリントやタブレット端末を用いて月に1度程度家庭学習等で復習し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆漢字の学習方法として、デジタルドリルを活用したり、漢字ドリルを活用したりするなど自分に合った学習方法を見付けることに一定の成果を得た。 ☆定期的に作文する機会を作り、文書作成ソフトも活用したため、「書く」ことに対する苦手意識が減少した。学力定着度調査においても「書く」ことに対して正答率が高い傾向にあった。 ●着目すべき表現や、人物像の読解に対しては70%程度の児童は意欲的に取り組むことができるようになった。一方で、場面のつながりや状況の理解を苦手とする児童もいるため、ワークシート等で整理する方法を指導する必要がある。 ☆算数の学習の復習を行ったところ、分数や小数の四則計算は定着してきた。 ●数直線を教師が示せば問題を解くために活用できるが、問題文を読んで、自ら数直線を活用して問題を整理しようとするのが課題であった。 ●文章の概要は理解していることが多いが、「文章を抜き出す」「理由を述べる」など、設問に対して正しく回答できない児童がいる。題意を理解して問題に取り組むことが課題であった。